

ARTS for HOPE

宮城チーム活動報告書 2013年11月20日

東長町児童館 ぶらぶら筆

拾った枯れ枝の先に筆記用具をくくりつけ、いつもとは違った筆感や不自由さ、面白さを味わいながら絵を描いてゆこうという、今回の「ぶらぶら筆」子どもたちは「なにが始まるの?」と興味津々。「変な風に動くペンの先っぽを楽しむのがオススメなの

にい!」とスタッフが遊び方を説明すると、なんとか彼らもぶらぶら、ユラユラ、グニャグニャの線を描き始めてくれて、ホッとひと安心。今度は、反対側にくっついた筆に絵の具を付けてのコーナーがスタートします。絵の具を使ってのやり方が、子どもたちはよほど楽しいみたいで、あっという間にロールの画用紙は、色彩であふれてゆきます。

男の子数人がよってたかって色を何層にも重ねた『大きな色』のコーナーは、塗り込められている色が次々と変化し、じっと見ていると「色で出来た池」みたいでとてもエキサイティング。「やるかもしれないな」と危惧していたドロッ

ピングも、始まるには始まったのですが、ハッピーペインティングのときのような激しさはなく、紙の上を走り回る子どもたちも今回は皆無。手足を洗う水道の水が冷たいせいもあるだろうけれど、『道具を手にはしていると、いい具合に行動に制御が入るみたいだね』というのが、スタッフの見解でありました。

